

10\_\_初等教育学\_\_教育の方法・技術\_\_齋藤陽子\_\_免許科目（全校種・教育の基礎的理論）※沖縄校との共通活用

No	テーマ	学修到達目標	内容	課題
第1講	教育方法の歴史～教えと学びのパラダイムの交錯～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領・学習指導要領の転換が図られていることを理解し、説明することができる。</li> <li>・現在の幼稚園教育要領・学習指導要領において、重要視されている学習者の主体的に学ぶ態度（自律的な学び）について、具体例を示しながら説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育方法の歴史としての行動主義的学習観について</li> <li>(2) 教育方法の歴史としての認知主義的学習理論について</li> <li>(3) 教育方法の歴史としての構成主義的学習理論について</li> <li>(4) 教育方法の歴史としての社会構成主義的学習理論について</li> <li>(5) これからの学びにおける、学習者の学びに向かう態度とは何か</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育方法の歴史としての、学習観の変遷を、学習者の具体的な姿を示し、述べなさい。</li> <li>(2) 現在の学習観において、重要視されている学習者の主体的に学ぶ態度（自律的な学び）について、具体例を示し、述べなさい。</li> </ul>
第2講	インストラクショナルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インストラクショナルデザインとは何か説明できる。</li> <li>・ADDIEモデルについて事例をあげて説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) インストラクショナルデザインとは</li> <li>(2) 教材開発とインストラクショナルデザイン</li> <li>(3) ADDIE</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ADDIEのプロセスを検討し、折り紙を折れるようになる教材を作成しなさい。</li> </ul>
第3講	21世紀に求められる学力と学習環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・21世紀に求められる学力について説明できる。</li> <li>・資質・能力を引き出す授業の条件を説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 知識基盤社会で求められる力</li> <li>(2) 21世紀型学力を育成する授業への変革</li> <li>(3) 授業・教育課程のすがた</li> <li>(4) 評価のすがた</li> <li>(5) 取り組み事例</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 知識習得モデルと知識創造モデルの違いを説明しなさい。</li> <li>(2) 知識習得モデルから知識創造モデルへの授業改善について、具体例をあげて説明しなさい。</li> <li>(3) 変容的評価について、具体例をあげて説明しなさい。</li> </ul>
第4講	システムのアプローチによる授業の設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムのアプローチ（システムズアプローチ）の意味を理解し、説明できる。</li> <li>・システムズアプローチの理論を基に、授業の設計の基本的な考え方を整理し、述べるすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) システム的アプローチ</li> <li>(2) 授業を設計する</li> <li>(3) TOTEモデル</li> <li>(4) カークパトリック・モデル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) システムズアプローチとは、どのような考えかを整理して、述べなさい。</li> <li>(2) システムズアプローチの考え</li> </ul>

				を基に、自身が行うと仮定する授業の設計の基本的な考え方を整理し、述べなさい。
第5講	授業の分析と設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何を学ぶのか、そのための授業のあり方について説明できる。</li> <li>・体系的な授業設計・開発の手順を5つに分けて説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業の目標分析</li> <li>(2) 教育目標の分類学</li> <li>(3) 教材の構造</li> <li>(4) 授業の設計・開発の手順</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 自分が授業を行うとするならば、何を学ぶ授業とするのかを具体的に述べなさい。学ぶことを実現するために、どのような授業とするのか、その方針を述べなさい。</li> <li>(2) (1) で述べた授業を基に、体系的な授業設計について、①何をしたいのか②何学びたいか③何を指導したいか④どのような順序で学ぶのか⑤それを指導するために、何がいるのか、の5つに分けて、具体例を示しなさい。</li> </ul>
第6講	学習目標のデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブルームの教育目標分類について、行動目標による例を取り上げて説明できる。</li> <li>・ガニエの学習成果の5分類について、具体例を挙げて説明できる。</li> <li>・明確な学習目標について、研修を仮定し、具体的に説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習目標の明確化</li> <li>(2) 学習目標の分類</li> <li>(3) 明確な学習目標を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ブルームの教育目標分類について、行動目標による例を取り上げて説明しなさい。</li> <li>(2) ガニエの学習成果の5分類について、具体例を挙げて説明しなさい。</li> <li>(3) 明確な学習目標について、具体的な単元において設定しなさい。</li> </ul>
第7講	e-Learning の方法と技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・e-Learning とは、どのような学び方であるのか、そしてどのような特徴を持っているのかを、具体的な授業を例に、説明できる。</li> <li>・e-Learning を活用した授業を、具体的に立案できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) e-learning</li> <li>(2) e-learning 開発の方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) e-Learning とは、どのような学び方であるのか、そしてどのような特徴を持っているのかを、具体的な授業を例に</li> </ul>

				<p>述べなさい。</p> <p>(2) e-Learning を活用した授業を, 具体的に立案しなさい。</p>
第8講	ハイブリッド型授業の方法と技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイブリット型授業について具体的に説明できる。</li> <li>・ハイブリット型授業で授業設計ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 遠隔教育</li> <li>(2) e-learning と遠隔授業を組み合わせた授業構成</li> <li>(3) 遠隔教育の必要性</li> <li>(4) 遠隔協働学習のすすめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 遠隔教育の変遷について説明しなさい。</li> <li>(2) ハイブリット型授業の3つのパターンについて, 具体例を挙げて説明しなさい。</li> <li>(3) ハイブリット型授業を具体的に企画しなさい。</li> <li>(4) ハイブリット型授業の課題について具体例を挙げて説明しなさい。</li> <li>(5) 遠隔教育の必要性について具体例を挙げて説明しなさい。</li> <li>(6) 遠隔協働学習を企画し, 実際にやってみなさい。</li> </ul>
第9講	魅力ある研修をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある研修をつくる講師の指導力について説明できる。</li> <li>・ガニエの9教授事象について具体例をあげて説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 研修を始める前に</li> <li>(2) 講師の指導力</li> <li>(3) ガニエの9教授事象</li> <li>(4) 講師が身に付けるべきスキル</li> <li>(5) 受講者に身に付けさせたいスキル</li> <li>(6) 学習環境を整える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ガニエの9教授事象をもとに, 魅力ある研修をつくるのにどのような研修の展開をするとよいのかについて, 具体的な教育・保育活動をあげながら, グループで話し合っ発表しなさい。</li> </ul>
第10講	学習意欲を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲を高める指導法について説明できる。</li> <li>・ジョン・M・ケラーの ARCS モデルについて具体的に説明できる。</li> <li>・アンドラゴジーをもとにして学校式教育から大人の学び支援について, その違いを具体的に説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 動機づけを高める要因</li> <li>(2) ARCS モデル</li> <li>(3) アンドラゴジーとペダゴジー</li> <li>(4) 学習意欲を高める指導法</li> <li>(5) 学ぶ意欲を保ち続けるために</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) アンドラゴジーをもとにして, 学校式教育から大人の学び支援について, その違いを具体的に5つあげて, KJ 法を使って, グループごとに分類し, 説明しなさい。</li> <li>(2) 各グループで, 学習の動機づ</li> </ul>

				<p>けの具体的な方法をあげて、ジョン・M・ケラーの ARCS モデルのどの分類にあたるか分類しなさい。</p>
第11講	協働的な学びをデザインする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働学習の考え方を理解し実際に授業デザインできる。</li> <li>・ワークショップの手法を5種類説明できる。</li> <li>・ジグソー学習について説明できる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日本における協働学習</li> <li>(2) 協働学習と互恵的教授法の考え方と学習効果</li> <li>(3) 協働学習に影響を与える要因</li> <li>(4) 協働学習のデザインの手法</li> <li>(5) 協働学習を支援する教材開発</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 協働学習の手法の一つである「ジグソー学習法」を経験し、学習者自身で知識を統合して答えを出す学習活動過程について理解を深め、その効用を検討しなさい。</li> </ol>
第12講	新たな学びと教育リソース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反転授業について具体例を挙げて説明できる。</li> <li>・反転授業について具体的に授業設計ができる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 反転授業</li> <li>(2) メディアを組み合わせた教育リソース</li> <li>(3) 新たな学びと教育リソース</li> <li>(4) デジタルアーカイブと教育リソースの連携</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 反転授業とその効果と可能性について説明しなさい。</li> <li>(2) 反転授業の学習展開について具体的に説明しなさい。</li> <li>(3) 反転授業の学習展開について具体的に指導案を作成しなさい。</li> </ol>
第13講	行動変容のモニタリング技法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動変容とは何か具体例を挙げて説明できる。</li> <li>・行動変容を起こすための仕掛けには何が必要か説明できる。</li> <li>・行動変容を評価する方法について説明できる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育支援プログラム(スクールアーク)</li> <li>(2) カークパトリック・モデル</li> <li>(3) 行動変容のアンケート調査の実施</li> <li>(4) 実践から10年後の追跡調査</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 行動変容の評価についてその効果と可能性について説明しなさい。</li> <li>(2) 行動変容を促す研修企画について具体的に説明しなさい。</li> <li>(3) カークパトリック・モデル(Kirkpatrick Model)の4段階評価を活用する事例を考えなさい。</li> </ol>
第14講	「教えないで学べる」という新たな学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教えないで学べる」とはどのようなことか具体例を挙げて説明できる。</li> <li>・「教えないで学べる」という新たな学びの設計ができる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) J・B キャロル (Carroll) の学校学習の時間モデル</li> <li>(2) 「教えないで学べる」学習環境</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) J・B・キャロル (Carroll) の学校学習の時間モデルについて説明しなさい。</li> <li>(2) 「教えないで学べる」学習環境について具体的に説明しな</li> </ol>

				さい。 (3)「教えないで学べる」授業を実現するための手立てを考えなさい。
第15講	学びの改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びを改善する意義を、自分にとってとして捉え、生み出すことができる。</li> <li>・学びを記録して、分析・振り返ることを実践できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学びを改善する意義</li> <li>(2) 学びを記録・分析する方法</li> <li>(3) 学びの振り返りの意義と方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学びを改善する意義を説明しなさい。</li> <li>(2) 模擬的な授業を例に取り挙げ、それに対して学びの記録・分析の方法を立案しなさい。</li> <li>(3) 学びの振り返りの方法を活用して、自分の学びの振り返りを実施しなさい。</li> </ul>